

---

# 流星のロックマン ~あの後英雄は…~

Mr.ブラック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

流星のロックマン～あの後英雄は…～

### 【Zコード】

N2163S

### 【作者名】

Mr・ブラック

### 【あらすじ】

地球の危機を3度救った、ロックマン」と星河スバル  
彼はあの後どうしているのでしょうか…  
少々のぞいてみましょう…

## 始まりの朝（前書き）

はじめまして！！

M-rブラックといいます  
なにしろ初めてなので、へたくそですが、お願いします！！

## 始まりの朝

『……い、おい！！起きろ！！スバル！！』

「うんあと五分…」

『何回用だ！！！それ！！！起きろ！』

「うへん、うねてなあロシクよ」

卷之三

スバルは言わ

『だから言つたるうが…早くしろ…!』

「な、なんで起こしてくれなかつたのさー。」

『俺は何度も起こしたろうが！！起きないお前が悪い！！』

もつともだ…スバルはあきらめる。

# ピンポン

「うわあああ委員長たち来ちゃったよーー

「スバル、先に行つててもううわよ。」

「そうしてーー！」

10分後：

「行つてきまーすー！」

「行つてらつしゃい。」

「おう、スバル急げよー。」

そして…

「ねえロック電波へー『駄目だ』ま、まだ言い終わつてないよー!?」

『電波変換は道具じやねえーーほら、走れーー』

「うえーん…」

スバルは全力で走る…

## 始まりの朝（後書き）

やつぱ下手ですね  
すいません

アドバイス、お願いします！！

## 転校生……なぜ？（前書き）

第2話目です！！

言い忘れましたが、オリキャラ以外は説明を入れません。

あらかじめ「了承ください」。

## 転校生……なぜ？

「はあ……はあ……はあ……が、聞に合ひた……」

「遅い！遅い！……遅い！……始業式から遅刻、ギリギリなんて、いい度胸ね！」

「やうだぞ！スバル！……」

「やうですよ。委員長を怒らせてくださいよ、スバルくん！」

「うーじめん……」

「まつたく……まあいいわ。今日は転校生がくるやうよー。」

「く～楽しみだねー！どんな子が来るんだねーーー！」

「俺はかわいい女の子がいいぜーーー！」

「もう…「パン太君は…」

『ーーーこの周波数は…おー！スバ…』

キーンコーンカーンコーン

「あ、うめんロック。チャイムなつかつたかい、またあとでね。」

『お、おーーーまあいいか。だが…まあか…な。』

ガラガラガラ

「よーし、みんな席についているな。ではまず、転校生を紹介する。  
1人ずつ入ってこい。」

「俺からか…。俺は荒瀬あらせ カイだ…! ヨロシクな…!」

カイはとても明るい感じで、いかにもスポーツマンといった感じだ。

男子の半数以上の目が釘付けだ。

ユメカは少し大人っぽくて、とてもかわいい。静かそうだがどこか雰囲気が出ている。

「え～っと、響 リンクで～す みんなよろしくねー。」

全員の声がハモツた。

## 転校生…なぜ？（後書き）

はい…ベタです…ベタすぎます。

でもこのほうがいいです　ｗｗ。

ちなみにカイの性格は、熱斗みたいな感じですね。

名前の由来は、ワンピースの「新世界」、要は新たな世界みたいな？感じです。

ユメカは…すいません！なんとなくです！！　ｗｗ

## //つの席は…

「じゃあ3人の席だが…3人に決めてもらおう。」

キラーン、男子の目が光る。

「ミツリちゃん…俺の隣に…！」

「いや、俺の隣に…！」

「いやいや、俺の…！」

もはや戦場だ…

しかし…ある一つの声で…

「私はスバルくんの隣で…！」

「そうか。星河、いいか？」

「え？あ、はい、いいですよ。」

「よろしくね スバルくん…！」

「あはは…よろしく…」

スバルは殺氣を感じた…

その中でもルナの殺氣は他とは比べものにならなかつた…

『ポロロン よろしくねウォーロック』

『ちつ…面倒なやつが来たぜ…』

「これで収まった、と思こさや…第一ラウンド開始。

「くつ…なら…音村さん…俺の隣に…！」

「なつずるいぞお前…！」

「音村さんそんな奴らより、俺の隣に…！」

しかし…これも…

「私は…カイくんの隣が…」

「へ？お、おう。わかつた。」

今度は殺氣の矛先がカイに…

「そうか。2人は同じ学校から来たんだったな。よし、星河の前に  
いってくれ。」

「よろしくな…！スバル…！」

「よろしく。スバルくん。」

ちなみにスバルの正体は知られている。

「あ、うん。よろしく2人とも。」

「//ヒルが んもゆく//（な）…」

「うそ…めりしへね…」

スバルの席は一番後の一番右だつた。しかし、その右//ヒルが…つまりは、スバルが//ヒルを独占…とこりこになる。

わいわい…どうなるのか…

ベタですね。

すいません。

感想、アドバイス等待っていますーー！

## // おじの書く本 (漫画)

なかなか疲れるものなんですね。

小説を書くのって ～～

でもとにかく楽しめます。

## 「ついでに書く」

「はあー…なんか視線がものす」→「痛いんだけど…」

（「ぐ…スバルの奴め…」）

（俺たちの「ソラちゃんを…」）

（スバルくん…ただじや済まないんだからね…）

その時…

『おーいスバル、メールだ。』

「え？誰から…」「ソラちゃん！？なんで？」

『放課後屋上に来て。話があるの。』

『ソラ』

（何だソラ…）

そして…放課後…

「スバルくん…帰るわよ…」

「あ、」みんな。先に行つて…」

「あ、ちよ…」

今までとは比べものにならないほどのオーラが…

（スバルくん… 委員長が怖すぎます… 命の保証はなくなりました…）

(スバル：恨むぞ…)

（ふふ、いいやんかな？）

(あ)腹減ったなあ

… クラスの皆はこんなことを考えていた。とにかく、怖い。… ゴン  
太とツカサは別だが。

屋上

「ごめん。待つた？」

「あ、スバルくん！！全然大丈夫だよ」

「じゃあ話つてなに？」

「……そ、それはね……／＼／＼」

（？何だろう…大事な話なのかな…）

「ス、スバルくんつて、好きな人はいるの？／＼／＼／＼

「…？…あ、まあね…／／／」

「…？そ。 そななんだ…／／／」

(スバルくん好きな人いるのか…でも…)

「話つてこれ？」

「う、ううん／／／これからが一番重要な話…／／／／／」

「…分かつた。 じゃあ話つて？」

「す…わ、私はスバルくんのことが好きです…！私と付き合つて下さい…！／／／／／」

// おひるのびの呼び出し (後書き)

はー……やつはなんか下手ですねー……

はじめてとはいえ、ひどすぎやしない

感想等お願いしますーーー

## スバルの答え

「……ええー?……ミツバチちゃん、本気?僕なんかでいいの?」

「もちろん！スバルくんじやなきやいやなの。」

「やつた！ ありがとうスバルくん！」

ミソラがスバルに抱きつく。

レシザン

なしみ……お……こやあ帰るか?

あ  
ら  
ん！帰  
る

2人は屋上をあとにする。

あ、そうだ! フラちゃん、このことに関して黙っていてくれない

卷之三

「……いやいや、僕が殺されるから。」

「じゃあ私が引っこあげるよ」

「…はあ～大丈夫かな…」

「玄関には委員長軍団が残っていた…

「え～？委員長、既～？帰つてなかつたの！？」

「あたりまえよ…～わあ説明してもいぬハジヤないの？」

「私がスバルくんに告白したんだよ～」

「「「～」」」

ルナ、キザマロ、モン太は言葉を失う。ツカサヒジャックは分かつていたようだ。

「どうじゅ」とですか！スバルくん！

「もうだ～～～」「お黙り！～」ひつ～

「どうじゅ」とかしら～～？スバルくん！？

「ひ～～～～～ミツクわやん、行くよ～」

「え？「～」つん分かつた！」

「「トランスホールド～～」

「シュー・ティングスター・ロックマン！」

## 「ハープ・ノート！」

「あ、ちよつと……」

(どうですか)

(...いくぞゴーウアス)

( し し か な ? ヒ た 川 ? )

( 悪い!! ナックル 賊む!! )

『『『おう! 了解だせ! 』』』

(( ((んべ) 日式生地!!))

「帰るわ…あれ? 皆?」

「…帰りました…」

ルナの叫びは「コダマタウン全体に広がったとかなんとか…

## スバルの答え（後書き）

はい……もちろん駄文です……

言い忘れましたが、ヒカルはツカサのウイザードってことで……

設定は、ゲームでいきます。アニメじゃなくて。

// 今何の歌…？（複数形）

遅れていますません

部活動で忙しかったです

## //ソラの家…?

そして、スバルの家の前…

「ふ~危なかつた…明日が…怖い…」

「全くも~世界の英雄が聞いてあきれるよ~?」

「…//ソラちゃんが悪いんでしょ…」

「てへ そうだった」

//ソラは頭を軽く殴る格好で、舌をだした

(ドキッ！かわいすぎだよ…)

「つていうか、//ソラちゃん帰んないの?」

「え? 聞いてないの?」

「え? つて…何を?」

「私、今日からスバルくんの家に住むんだよ~」

「…はい? //ソラちゃん、今なんて?」

「お邪魔しま~す」

//ソラはスバルを無視して家に入った…

「…ええええええええええええ…？本氣~~~~~！？」

「あ～スバルおかれりなさ～。//ソラちゃん、お邪魔しますじゃな  
いですか？」

「え？…た、ただいま…」

「はい、おかえりなさ～」

「…ありがと～」や～います…。スバルくんのお母さん…」

「敬語はなしね。あと、スバルくんのお母さんじやなくて？」

「ありがと～…お母さん…」

「はい、よべでやめました。これからは遠慮しないでね？」

「はい～お願いします～！」

「じゃあスバルの部屋にでもこつておこ～。」

「は～い。行～」、スバルくん「

「…うん。」

無視されて、少々いじけていたスバルであった。

## // つの家...? (後書き)

う~む...久しぶりでこれか...

ひどすぎです...

もつと国語を勉強しないと...

## またも新たな家族

「全く... なんで言つてくれなかつたの?...」

「ごめん知つてるとばかり……」

「まあ…まあいいや。」これからよろしくね…。」

「スケルトン」

『ボロロン それは私のことかしら?』

『ちへ…まあしようがねえか…』

「それにしてもスバルくんの部屋は宇宙の本かい？ はいたね。」

「まあ好きだからね」

二二九

シンホーン

論述二三

「お邪魔します」

「あー、遅かったわね。」

「…? カ、カイくん?、コメカちやん!…?」

「おー、スバルか。俺らここ住むことなったんだ。四口シクなー。」

「よろしく、スバルくん、ミンカラちゃん」

「じゃあ2人は私のことお母さんと呼んでね。敬語もなしでね。」

「了解だぜ、母さん」

「わかった。よろしくお母さん」

またも新たな家族（後書き）

THE 駄文です。WW

もつと頑張らないと

## 畠田（福井県）

おひるねめで...

## 理由

「つていうか、へんなう一言へりこまつてよ……」

「フリイフリイ、知つてゐかなつて思つてさ」「さ

「うめんね。スバルくん」

「まあいいや。でも2人はどうしてうちに？」

「ん？え～つとな…俺、親いるんだが、いま仕事で外国へ行つててな。それで、大吾さんにここへきていいって言われてな。」

「え？うちの父さん知つてるの？」

「ああそりしきぜ。親同士、大親友だつてよ。俺らも一回だけ遊んだことがあるらしいわ。」

「へ～知らなかつたよ。」

「ははは、まあ無理もねえさ。2歳のときからな。」

「それなら覚えてないね～。あ、コメカラちゃんは？」

「うちの親も外国にね。私はあかねさんがきていいつていつてくれて。私のお母さんはあかねさんを一番の親友つていつてたよ。」

「やうなんだ～。2人ともお父さんとお母さんはどうの国に行つてるの？」

「うわせシャーロコってあるか。2年も帰つていなえども」

「うわはアメロッパだよ。うわせ2年へりいかなー」

「2人とも大変なんだね……でもこれからは僕も、ミツハちゃんも家族だからねー」

「もううつよひしへ。あ、コメカちゃんあとでうつときこでもいい?」

「? いいけど…なに?」

「いいから、いいから。またあとでのお楽しみ」

「…?」

「みんな~」飯よ~

「あ、」飯だつて。じゃあこいつか

「ああ、もうだな。」

## 理由（後書き）

悲しい…だれか…アドバイスを…

## 家族の夕食（前書き）

頑張ります。

# 家族の夕食

「 いただをもーす。」

卷之三

ちなみに、夕飯はハンバーゲーであった。

「おおー！」

一本堂 おしゃれ

・ あいじ いおゆわん

「ふふ、たぐわん食へなさい」

そして

「はい、お粗末様」

「あ、おめでたすやつよ。」

「あ、私も私も！」

「あら、ありがとうございます。じゃあこれを洗つてね。」

「はい」

「じゃあ僕は展望台に行つてくるわ。

「あ、俺も行つていいか?スバル

「うさ。じゃあ二つとも行くつか。

『あ……あれ? なんだか違和感があるんだな……』

「行くわよ。」「

「二つとも行くわよ。」「

## 家族の夕食（後書き）

サブタイトルが家族の夕食にしては少なかつたですね  
しかもみじけえ…

感想、待っています。

## 「メカの気持ち

「2人ともありがとわ。早く終わつたわ～」

「じゃあ上に行つてるね、お母さん」

「分かつたわ。」

…スバルの部屋…

「ねえミンカラちゃん、やつこえは聞きたことってなに?」

「あ、やつこえ。じゃあ聞いていいかな?」

「うそ、いいよ」

「「メカちゃん」とカイくんって、付きましたの?」

「――――な、なに――? いきなり? ? / / / /

「いや、氣になつたから…」

「そ、そんな」となによー。カイくんとは、ただの幼馴染だよー。」

「ふう～ん? じゃあなんでカイくんの隣に座つたの~?」

「そ、それは知り合いがいなくて、心細かつたから…」

「じゃあ好きでもなんでもないのね?」

「／＼／＼セ、それは...／＼／＼」

「好きなんでしょう？」

「…………うん。まあ…」

「どうせなどいのが好きなの？」

「セ、それは…うん…」

「挙げたらきりがないとか？」

「うん…でも、しごてこひなり、カッコイイし、セセシ…頼りになるし、強いし…」

「強い？」

「あ、うん。それはまた今度話すね。」

「分かった。とにかく好きなんだよねー。」

「うん…」

「じゃあお出でいやいなよー私も今日成功したばつかだしー。」

「え…で、でも…」

「これから展望台に行けば、まだ間に合ひますー。」

「な、なにも今日じゃなくても…」

「いじから、いいから」

「うそ…分かったー。まつむるー。」

「じゃあ…ねかねへん、なまつと連絡を取つてくんな~

「はーい、わかつたわよ~」

「じゃあこいつかー。」

「うそー。」

## ゴメ力の気持ち（後書き）

疲れたあ  
…

## カイの気持ちって…?

展望台

「おお… きれいな星空だな～」

でしょ？

「ああ。手を伸ばせば届きそうだな。」

ほほほ、そこへだね

「おやしなまなづ帰てれはいじやなしが」

中  
家にはハリスがいるだろ!!』

「いやあ恭順しなよ」

「ちーしょーかねーな

あそこへは大いくん

—  
h  
?  
—

「カイくんつて、ユメカちゃん付き合つてるの?」

「はあ？ なんでだよ」

「いや、なんとなくだけ…」

「ん~…いや、別に付き合っちゃねーよ」

「ふうん」

「そういやあスバル」

「え？ なに？」

「今度、俺と戦つてくれねえか？俺も電波変換できんだよ」

え？ なんで？？

「世界の英雄と戦ってみてえだらうがよ」

「いま、ちょっとWAXAに預けてな」

『……すみません、お手数をおかけして』

「またロックは…でも、分かつた…」

「よし！負けねーからなー！」

「僕だつて！！」

本日2話目---

本日2話目---

「おーこ、あれ//ツカちゃん」とコメカじゅねーか?

「え?ホントだ」

「おーい、スバルくーんカイくーん」

「どうしたの?//ツカちゃん」

「コメカちゃんがカイくんに話があるんだって」

「俺に?なんだ?」

「え...えつと...」

「?」

「わ、私は、カイくんの」とが好きなの...もしよかつたら、私と付き合ってください...!」

「あ、マジかよー?本氣か!?」

「やうりん本氣だよ!...カイくんは、私じゃダメかな...」

「いや、ダメ//ツカいたあねえがよ...なんつーか...つーん...」

「あーもひ、カイくん!」

「え? なんだよ、//ソソリソサザンさん

「あなたはコメカちゃんが好きじゃないの?」

「…わかんねえ…」

「…え…? わかんない…?」

「おひ…なんつーか、ダチ感覚でいたしょ…」

「そ、そつなんだ…」めんね、カイくん。やつぱりこことよ…」

「でも…俺は何があつてもコメカを守りてえつて思つてきたんだ…これが好きなのかは分からねえけど…たぶんすきなんだよな…」

「やつだよーそれが好きつて言つんだよ…」

「せうか…じやあ俺はコメカが好きだー俺でよければ、よひじへ頼むー」

「カイくん…あつがとうー…」

「よかつたねーコメカちゃん…」

「うそ、あつがとうー…やけソソリソサザン…」

「やつだな、そつすつか」

また新しいカップルが誕生した瞬間だった

へタクソです…

## 長い夜

「かしづかの寝室をじ

「ああ。でもよ、コメカと//ソラがやさ、それには寝つかないで寝つ

あここんだ?」

「もうだよな…」

「私はスバルくんと寝るよ

「…」

「だ、だめだよー。ちひりに…

「たすかがてまつこだらひ…」

「私もカイくんと寝た…」

「う、コメカ…お前まで…」

「じつも、じもあこいつしおうよ。かいつかの寝かいか、コメカ  
ちひりに…あこひりで寝てよ。」

「あ、そりだな。それが良ことと思ひや。」

「嫌

「ちひり…」

「じつあるよ…スバル…」

「あきらめなさい…スバルくん」

「やつだよ…カイくん…」

（さすがにまさこよ）。ファンの人や委員長に知られたら、僕の人生が終わる…）

（やべえな…まさかユメカがこんなこと言いだすとは…）

「スバルくん…私のこと嫌いなの…？」

「いや、そうじやないけど…」

「ねえ、カイくんは…？」

「き、嫌いじゃないが…」

「「じやあにいじやない」」

「はあ…あきらめの…しゃーねえな…おいスバル、布団はいりぬーぞ」

「え? なんで?」

「リアルウェーブのベッドがひとつだけある」

「あ、そつなんだ。わかった

「じゃあ寝よ スバルくん

「寝よっか、カイくん

「まーあ…」

5分後

スバル・ミンラ卿ベッド

「ねえ//さひりん//さひりん

「なこ？」

「抱きつけるはめでよ…」

「やーだ

「こせ、からいりこら…」

「すーすー…」

「寝のまつ…あきらめるか…」

カイ・ユメカ側ベッド

「なあユメカ、もうちょっと離れてくれよ

「いいじゃない」

「よくね… つて寝てるしーはあ… 僕も寝るか…」

「すーすー…」

しかし、この夜カイとコメカはなかなか寝つけなかつたらしい…



ドリル（前書き）

久しぶりス

修学旅行消しちまいました（泣）

すいませんッス…

ドル

「起きてよ～カイく～ん」

「スバルくん遅刻するよ」

ん……はあ……寝不足だせえ……

「眠い」

「ほらほら、朝ごはん食べて学校行かなきゃー。」

一  
ああ  
」

- 15 -

「「「「「ただそれ。」」」」」」

（おい、スバル。どーすんだ？お前）

(何が?)

(ウォーロックが、スバルはドリルに殺されるつていつてたぞ)

「アーティスト……？」

!

「 」 「 」 「 」 「 」

「 ど、どひしたの？スバルくん」

「 」 「めん。僕、先に行く！？」

「 えつ、ええ！？」

「 ロック、電波変換するよ！？」

『 嫌だね』

「 もう一度だけ言ひよ。電波変換だ。」

『 わ、わかった』

（ ）（スバル（くん）怖つ！…）（ ）

「 トランスコーデー！」

「 あ～あ、行つちまつたなあ。」

「 私も行くね！行つてきます、お母さん。トランスコーデー。」

「 あひあひ。気をつけるのよー」

「 しゃーねー…行くぜ」

『 イース、マスター』

「私達も行くよ」

「オッケー」

「「トランス」「ードー!」」

「行つてきまゆ。お母さん」

「行つてくるわ。母さん」

「いつてらっしゃい。それにも…あの一人も変身できるのねー

4人は忘れていた…ドリルの存在を…

## ドリル（後書き）

変な終わり方つすね（笑）

コメよろっす

## 一体の電波体

「一応セーフだけど……」

「全く……私を置いていかないでよー！」

「あ、ごめん。ミソソリちゃん」

「スバルくんのバカ！」

「つたく……いきなり行くなよな」

「そうだよ、スバルくん」

「力、カイくんにユメカちゃんー？早くない？」

「ああ電波変換で来たからな」

「そういうえば、出来るつていってたね。どんなウイザードなの？力  
いくんのウイザードは」

「ああ、ゼウスってんだ。」

『はじめまして、ゼウスと申します』

『あー？ お前、ゼウスじゃねーか！』

『えー？ あ、ウォーロックじゃないですか！』

『ちょっとちょっと私を忘れてるわよー..』

『おおーー!アテナじゃねーか!..』

『ポロロン お久しぶりね』

「ちょっと、ロック。知り合い?」

『ああ、俺らがFM星にいたときの仲間だ。一人とも俺と氣があつてな。仲が良かつたんだ』

『ポロロン 一人とも強くて、ロックがコーヴァスヴァルゴにやられてたときは、いつも助けてくれたわ』

『余計なこというんじゃない!..』

「あはは..」

(なんでこんな礼儀正しいゼウスがロックと氣が合つんだろう..)

「俺は電波変換でゼウス・グレイヴになる」

「私はアテナ・ヴィーナスになるよ」

「へえ~」

「その時...」

ガラガラガラン!..

「い、委員長！？」

「見つけたわよ！！」

すっかり忘れていたスバルたちだった・・・

## 一體の電波体（後書き）

「…でも、なんか、変なんですよねえ…」  
「メントお願いします…」

## ドリルの怒り、カイの言葉

「それで、いろいろ聞きたいことがあってね……」

（まざいぞ、相当お怒りのようだ……）

「まず、今日はなんで私達を置いて、先に行つたのかしら？」「

「そ、それは……」

「俺が頼んだんだよ。」

「カ、カイくん！？」

「まだ色々わからんねー」とばっかだからな。早く来て、ここのことをもつと教えてほしにって頼んだんだよ。」

「あ、そうなの？じゃ、じゃあしようがないわね」

（ありがとう！カイくん！）

「じゃあ次に、昨日のことよーなせミソリちゃんがスバルくんに告白しているのー！」

「あ、そうにわれても……」

「好きだからだよ」

「ハ、ミソリちゃん……」

「なあ委員長、お前さあスバルのこと好きなんだろ？」

「なーーそ、そんなわけないじゃない……」

「お前がスバルを好きでも、それでもスバルはソラちゃんを選んだんだ。それは仕方がないことだわ。」

「だ、だから！私はスバルくんのことなんて……」

「本当に好きなやつなら、そいつが幸せになれば、それでいい。そいつの幸せは自分の幸せ。邪魔なんかするもんじゃなく、むしろ応援するべきだ。違つか？」

…シーン…

（…カイくんは、す、…）

（す、…スバルくんもあれくらい、言ってくれなきやー…）

（さすがカイくん！やつぱりカッコいいー）

「そのとおりね…私の負けだわ…」

「でも、ルナちゃん。恋はライバルがいたほうが楽しいんだよー。」

「へっ、スバルはモテモテだなあ。つりやましごぜ、はつはつせ

「カイくん…」

「わっ！な、なんでユメカまで怒るんだよ…？」

「もっ！知らない！」

ガラガラガラ

「席につけ。授業だぞー」

「ありがとう、カイくん」

「気にはんなよ、スバル。俺たちやあ友達だろ？」

「うん…そうだね！」

「じゃあ礼の代わりに…今日の放課後、俺と闘つてくれ

「え…？ いきなり、今日…？」

『いいじゃねーか！ 腕がなるぜ…』

『私もウォーロックがどこまで強くなつたのか、知りたいです。』

「…うん。わかったよー勝負しよう…」

「そう」なくつちやな…！」

「やるからには負けないよ…」

「大口叩くのは、俺に勝つてからにしな…」

『そのセリフ、そつくりそのまま返してやるぜー。』

「スバルくんとカイくんかあー楽しみだね！コメカちゃんー。」

「そうだね！」

さて、スバルとカイの勝負はどうなるのか！

ドリルの怒り、カイの言葉（後書き）

変な感じですみません。

感想待つてます

スバル VS カイ

放課後

「さあて、行くぜ！スバル！」

「勝負だ！ カイくん！」

「エラスモー！」

- 5 . 5 フィルタリング！

卷之三

いくよ！ハトリガーリ  
ギヤンス！

：な／＼か その程度か」

カイロギヤンが当たり 燐が起る

「へー！直撃だぜ……んな！？」

「む、無傷！？」

カイは何事もなかつたかのように立っていた

「そんな程度なのか？違うよなあ……」

「くつ！バトルカードガトリング！！」

今度はすべて片手ではじめられた。

「そ、そんな！」

「今度はこっちからいへぜーぜウス・W・ブレッヂー！」

カイは両手に銃のようなものをもつた

「くつーすべてよけられない」

「まだまだー！ビッグ・バン・クラッシュゴー！」

カイは片手を前に出し、強大なエネルギー波を放つた

「ぐそつ、なんてパワーだ…ぐああああああ！」

スバルは止めきれず、モロモロくらうてしまつた

「はあはあ…ロック、ノイズチエンジだ」

『ああいけるぜ』

「ノイズチエンジー！オックス！」

ロックマンはオックスノイズになつた

「第一ラウンド開始だ！オックススタックル！」

「ぐおつーへへへ…いいパワーじゃあねえか！」

(まさか、オックスタックルを正面から受け止めるなんて…)

「はああああ…」

カイは受け止めたまま手を前で重ねた

『なんだ?何をしてやがる…』

「ファイナル…」

「ま、まずこいつ…」

『や、やべえ…』

「グレイヴ・キャノン…」

「『ぐああああ…』」

「ま、まさか」んなに強いなんて…」

「はあはあはあ…スバル、降参か?」

「そんなはずはないわ…こくよ、ロックー!」

『準備OKだ…』

「おおおおおお…ファイナライズ!ブラック・ヒース!」

ロックマンはブラック・ヒースとなつた

「ほお……」

『マスター、この数値は少々危険かと……』

「わかつてゐる……俺も少し本気をだそつ……」

「いくよカイくん、決着をつけよう!——」

## スバルVSカイ（後書き）

バトル下手ですね

アドバイスお願いします！！

## ファイナライズ！

「バトルカード！ワイドウェーブバルカンシード×シュリシリケン×！」

「ちつ！フィールド…オープン…！」

カイはエネルギーを球状にして、バリアにしてロックマンの攻撃を防いだ

「まだだ！NFB-アトミック・ブレイザー…！」

「くつ…防ぎきれねえか…ならば！ファイナル・グレイヴ・キヤノン…！」

A・ブレイザーと、F・グレイヴ・キャノンがぶつかり合い、大きな衝撃波が起こる

「ヒジめだー・ブラック・エンド…」

「そつはいくか！ゼウス！ファイナライズだ！」

「了解しました、準備は出来ています。」

「ファ、ファイナライズだつて…？」

「見やがれ、スバル！ファイナライズ！レッド・ジョーカー！」

カイはレッド・ジョーカーになった

「な、なんでカイくんがファイナライズを！？」

『んな』たあぢうでもいいぜ！スバル！』

「わ、わかった！FNFBI-B・E・ギャラクシー！」

「うおおおお！レッド・メテオ…レイザー…！」

R・M・レイザーと、B・E・ギャラクシーがぶつかった衝撃で、  
クリムゾンが無数に発生する。  
それほどの威力だったといふことだ。

「はあはあ…スバル」

「な、なんだい？カイくん」

「ひ、引き分けにしないか？」

「そ、そうだね…」

こうしてスバルVSカイは引き分けという結果になった

『強くなりましたね。ウォーロック』

『へつーおめえもさすがにつええなーゼウス』

『なにを…マスターのおかげです』

『よくいづぜー』

「スバルくん」

「あ、ミンラちゃん」

「カイくん」

「ユメカか」

喋りながらスバル、カイは電波変換をとく

「すつごくよかつたよ！スバルくん！」

「ありがとう。でも…カイくんがあんなに強いなんて…」

『引き分けだから、互角じゃねーか！』

（マスター、引き分けでよかつたのですか？）

（わうだよ、カイくんなんで本気ださないの？）

（体が痛くなるしょー、相手は敵じゃねーし…）

（なるほど…それもそうですね）

（ま、いつか）

「強いなスバル！さすが世界のヒーローだなー」

「カイくん！そーすつよかつたよー！」

二人は握手をした

二人の絆がさらに強まつたバトルだった

「貴様のデータは手に入れた。待っている、荒瀬カイよ。すぐに貴様の首をとつてやろう。ふふふ」

不敵な笑みを浮かべるこの男は何者なのか

謎の男（前書き）

だいぶひせしがぶりです

# 謎の男

次の日

「おっはよースーパールーくーん！」

「ん~ああ...あせ~...」

「カイくんそろそろおきよーよ」

「ん？…はあ～お世話…」

「ご飯だよー」

—ああ：飯くうか

「そうだね…」

したたきあーす」

卷之二十一

一  
人  
は  
く  
た  
の  
か  
?

「当然だよ」

「早起きだから」

「アーティスト…」

數分後

「アサヒ」の世界

一  
はい、  
お粗末様上

「あ〜」

卷之三

卷之三

卷之三

ミヽミヽガ在ニニヤハガラシ

…自分ではどうかと思ふが…」

卷之三

今度はスバルが聞いた

「まあ200人くらいいて、良くて1~2番悪けりや5~6番くらいかな…」

「はあ！？」

「カイくんは頭いいからね~」

「はあ~ひ~やまし~」

「スバルは?」

「普通かな~」

「普通か~いいんじゃ~な~?」

「ビ~からか矢のよつなものがとんできた

「ふつよくきがついたな」

「な~?お前はカルロ~!~し、死んだはずじゃ~?」

「ふざけるな!私がそう簡単に死んでたまるか!」

「くそつ~電波変~」

「アレス・ブレイド~」

「~!~!~!~!」

「シヨ~シヨウ~?」

「おう!久しごつ!」

いきなり現れた、ショウという少年いつたいなにものか~

## 親友との再会

「ショウウー？なんでお前が！」

「詳しい話は後だ！まずは」

「いつを…」

「チツ！有賀ショウウか…」

「フン！5対1だぜ？どうするよカルロー！」

「なんだと？5人くらいで私が倒せるか！」

「そこまでだカルロ！」

「どこからか声がした

「　　「　　「　　「　　？」」

「お前に勝ち目はない。今はひくぞ」

「くつ…分かりました…グラント様」

「久しぶりだな、荒瀬、音村、有賀…そして、そいつがロックマン  
…星河スバルか…」

グラント呼ばれた謎の電波体は、カイたちを見て、呟いた

「グラント…やはつお前も生きて…」

「当然だ。… また会おう、荒瀬」

グラントとカルロは消えていった

「ふう～ 危なかつたあ…」

「ショウーなんでお前がここにいるんだー。」

「ん？ わあ～ ね後でのお楽しみや。 んじゃやー。」

ショウは電波変換して消えた

「つたく… なんだつてんだよ…」

「ああつ…!…!」

スバルが叫んだ

「ど、どひじたの？ スバルくん？」

「学校忘れてたー 遅刻まであと一分しかないー。」

「あつ…!…!」

「急げ…!…!」

…学校…

「はあはあ… 聞こ合つた…」

「よ、良かつたぜ…」

「もつだめかと思つたよ…」

「ギリギリセーフね…」

「スーバールーくーん！？」

「ひつ…委員長！？」

「なんで…」

ガラガラガラ

「席につけー」

(ホツ)

(全く…許さないんだから…)

「今日は転校生を紹介するぞー。入つて!」  
「い

ガラガラガラ

「有賀ショウです。よろしく」

「んな！？ショウ！？」

新たなクラスメイトが1人加わった



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2163s/>

---

流星のロックマン～あの後英雄は…～

2011年11月3日11時22分発行